

T1A
1
Mi 97

自心華山故指也指為秦華也
西南六十里禹尚闕也羊腸
在大澤晉陽中北九十里孟門
山在其西今言左則東別有孟
州河內縣西北至幽州九百嶺
杭恒胡登地北載在深宋府曲

立東敗於齊將軍應涓與太子

於秦乃車符官幣以招賢者孟

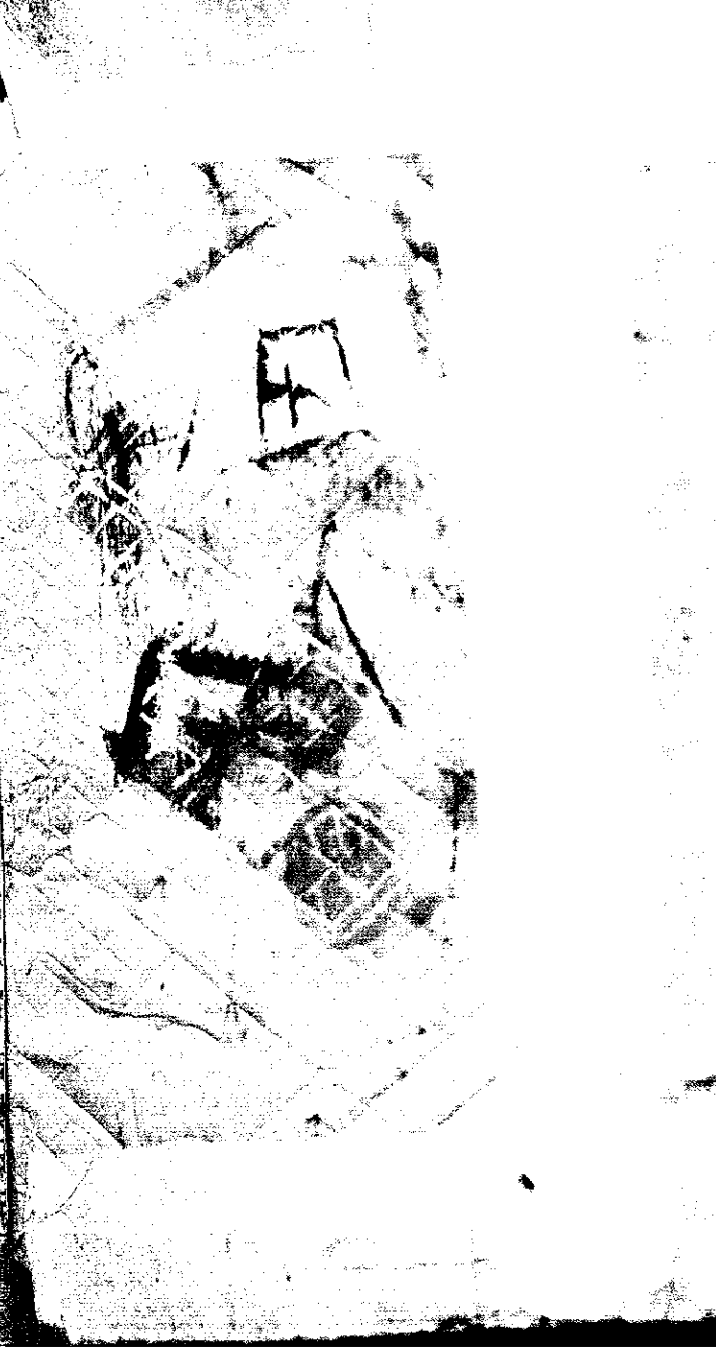
子去之齊登言魯人有張儀

楚相既辱妻愠有語儀曰祝吾

儀使人秦為楚相既辱為去楚

儀秦之乃執而晉之吾告示許復

儀秦秘使人談儀吳語已五
不得云者且及見又憐辱之
人顯與隨之人秦在日乃



官 許

水溪良孝圖解
國井應支畫

借本

天野

小學入門便覽全

附 體操圖解

明治元年七月發兌 文求堂梓

小學入門便覽

題言

大石 吉雲 詞

一學制ノ新ニ定マリシヨリ中小學ノ教則漸ク備ハ
レリ而シテ兒童ノ初歩ヲ教ルニ先ツ紙牌ニ大書シ
タル所ノ文字ヲ指示シテ之ヲ授ルヲ法トス然レ
トモ其紙牌タル大ニシテ出入提携ニ便ナラス又人
々ノ購求シ易カラサルヲ以テ家庭ノ訓導或ハ未
ダ備ハラズ温習モ亦竟ニ闕如ニ至ランコトヲ恐ル
故ニ今此書ヲ編成シテ家ニ教ヘサルノ父ナク戸ニ
習ハサルノ童ナカラシメンコトヲ欲ス是專ラ輕便ヲ
主トスル所以ナリ

目次

- 一 いろは圖
- 一 濁音圖
- 一 次清音圖
- 一 算用數字圖
- 一 加算九九圖
- 一 單語圖
- 一 線及度圖
- 一 色圖
- 一 并畧解
- 一 五十字音圖
- 一 數字圖
- 一 羅馬數字圖
- 一 乘算九九圖
- 一 連語圖
- 一 一面及體圖
- 一 體操圖解

小學入門便覽

水溪良孝圖解

四十七字

平假名ハ艸書ヲテ
畫の少き字を撰ひ
たるを此たり

へ 通	い 以 伴
と と	ろ ろ 務
ち ち	は は 波
り り	に に 仁
ぬ 努	ほ ほ 保

せ	み	あ	け
勢 老	三 美	阿 安	計 針
す	し	さ	ふ
寸 寸	志 之	佐 老	婦 不
ん	ゑ	き	こ
	南 惠	起 貴	古 己
と	ひ	ゆ	江
	部 比	遊 由	元 江
	も	め	て
	母 母	免 女	亨 互

の	な	た	る
比 乃	那 奈	多 古	待 留
ね	ら	水	を
能 能	羅 呂	連 礼	茂 達
く	む	ろ	わ
九 久	業 武	楚 古	王 和
や	ら	つ	か
屋 也	有 亨	都 川	可 加
ま	る	ぬ	よ
万 末	井 為	年 祿	代 与

五十音

五十音ハ仮名返一考と云ふハ
漢を用由片仮名とハ文字の一部
を取て其音を假るたり

ア	カ	サ	タ
イ	キ	シ	チ
ウ	ク	ス	ツ
エ	ケ	セ	テ
オ	コ	ソ	

ナ	ハ	マ	ヤ	ラ
ニ	ヒ	ミ	イ	リ
ヌ	フ	ム	ユ	ル
子 <small>ネ</small>	ヘ	メ	エ	レ
ノ	ホ	モ	ヨ	ロ

シ	ワ
フ	井 <small>キ</small>
仄	ウ
片	エ
メ	ヲ

濁音ダクオン

ハジメの音ハ聲の強ク
聞ゆることなり

ザ	ガ
ジ	ギ
ズ	グ
ゼ	ゲ
ゾ	ゴ

バ	タ
ビ	チ
ブ	ツ
ベ	テ
ボ	ド

次清音ジセイオン

半ハジメの濁音四行目の
バビブベボの更ニ強ク
聞ゆることなり

ハ
ピ
プ
ペ
ポ

數字

L ^{五十}	VII ^七	I ^一	ローマ スウジ 羅瑪 數字ノ圖 此文字ハ時計のまろゝ又ハ 諸荷物等の番号ニ用也
C ^百	VIII ^八	II ^二	
D ^{五百}	IX ^九	III ^三	
M ^十	X ^十	IV ^四	
	XI ^{十一}	V ^五	
	XII ^{十二}	VI ^六	

ファイフ	5 ^五
セキス	6 ^六
セヴン	7 ^七
エイト	8 ^八
ナイン	9 ^九

レイ	0 ^零	サン ヨウ スウ ジ 算用 數字ノ圖 万国通用まろゝ文字とて 持ちろむんニ用也
ウオン	1 ^一	
ツウ	2 ^二	
スリー	3 ^三	
フォール	4 ^四	

十	五	〇
百	六	一
千	七	二
万	八	三
億	九	四

加算九九ノ圖

一	二	三	四	五	六	七	八	九
二	三	四	五	六	七	八	九	十
三	四	五	六	七	八	九	十	十一
四	五	六	七	八	九	十	十一	十二
五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三
六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四
七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五
八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六
九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七

五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四

六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五

七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六

八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七

九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八

加算九九諸誦讀方

一一一多ノ二	一一二多ノ三	一一三多ノ四	一一四多ノ五
一二五多ノ六	一二六多ノ七	一二七多ノ八	一二八多ノ九
一三九多ノ十	一三一多ノ三	一三二多ノ四	一三三多ノ五
一三四多ノ六	一三五多ノ七	一三六多ノ八	一三七多ノ九
一三八多ノ十	一三九多ノ三	一四〇多ノ四	一四一多ノ五
一四四多ノ七	一四五多ノ八	一四六多ノ九	一四七多ノ十
一四八多ノ十一	一四九多ノ三	一五〇多ノ四	一五一多ノ五
一五二多ノ七	一五三多ノ八	一五四多ノ九	一五五多ノ十
一五七多ノ十一	一五八多ノ三	一五九多ノ四	一六〇多ノ五
一六二多ノ七	一六三多ノ八	一六四多ノ九	一六五多ノ十
一六九多ノ十一	一七〇多ノ三	一七一多ノ四	一七二多ノ五
一七四多ノ七	一七五多ノ八	一七六多ノ九	一七七多ノ十
一七八多ノ十一	一七九多ノ三	一八〇多ノ四	一八一多ノ五
一八二多ノ七	一八三多ノ八	一八四多ノ九	一八五多ノ十
一八七多ノ十一	一八八多ノ三	一八九多ノ四	一九〇多ノ五
一九二多ノ七	一九三多ノ八	一九四多ノ九	一九五多ノ十
一九六多ノ十一	一九七多ノ三	一九八多ノ四	一九九多ノ五

五二六多ノ上	五二七多ノ上	五二八多ノ上	五二九多ノ上
六二一多ノ七	六二二多ノ八	六二三多ノ九	六二四多ノ十
六二五多ノ十一	六二六多ノ上	六二七多ノ上	六二八多ノ上
六二九多ノ上	七二一多ノ八	七二二多ノ九	七二三多ノ十
七二四多ノ上	七二五多ノ上	七二六多ノ上	七二七多ノ上
七二八多ノ上	七二九多ノ上	八二一多ノ九	八二二多ノ十
八二三多ノ上	八二四多ノ上	八二五多ノ上	八二六多ノ上
八二七多ノ上	八二八多ノ上	八二九多ノ上	八三〇多ノ上
九二二多ノ上	九二三多ノ上	九二四多ノ上	九二五多ノ上
九二六多ノ上	九二七多ノ上	九二八多ノ上	九二九多ノ上
九三〇多ノ上	九三一多ノ上	九三二多ノ上	九三三多ノ上
九三四多ノ上	九三五多ノ上	九三六多ノ上	九三七多ノ上
九三八多ノ上	九三九多ノ上	九四〇多ノ上	九四一多ノ上

九	八	七	六	五	四	三	二	一	二	三
						九	六	三	二	一
					十六	十二	八	四	二	
					廿五	十八	十	六	三	
				廿六	十八	十	六	三	二	
				卅五	廿四	十八	十	六	三	
				四十四	卅三	廿四	十六	十	六	
				五十四	四十三	卅四	廿六	十六	十	
				六十三	五十二	四十四	卅六	廿六	十六	
				七十二	六十一	五十四	四十六	卅六	十六	
				八十一	七十二	六十六	五十八	卅六	十六	

乘算九九讀方

一	三	七	三	一	四	四	一	一	一	一	二	二
一	七	六	一	八	八	一	九	九	二	二	二	四
二	三	六	二	四	八	二	五	十	二	六	十	二
二	七	十	四	二	八	十	六	三	三	三	九	九
三	四	十	二	三	五	十	五	三	六	十	八	七
三	八	二	十	四	三	九	二	七	四	四	十	六
四	六	二	十	四	四	七	二	八	四	八	三	二
四	五	二	十	五	五	六	三	十	五	七	三	十
五	九	四	十	五	六	六	三	十	六	七	四	十
六	九	五	十	四	七	七	四	十	九	八	五	十
八	八	六	十	四	八	九	七	十	二	九	九	十

一第圖語單

イ



糸
足と機を織り交物と成る或は着物等を縫ふものなり



山狩鷹持杯運者なり又夜に能く門戸を守らるものなり



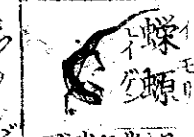
つね人の畜獸として山狩鷹持杯運者なり又夜に能く門戸を守らるものなり



のい地中と水の漏れて垢を毎日便水とくらし居る所なり



のいぬの食用を飼ふ為の人家の畜養するものなり



のいぬの食用を飼ふ為の人家の畜養するものなり

イ



かゝの煙の木等してつる舟を行く道具なり



あやぐたいの金木又ハ陶工を造り夜中燭の火を照し立る臺なり形ち色々あり



うらむの鬘甲してつくり婦人の頭の飾りとするものなり

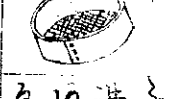
ト



かゝの海の水等を煮て食用するものなり又煉染布等を煮る其用至多



つらひの木を造り竹の籬と成水を入れぬの洗者なり



つらひの薄き板と成て造り底に針金竹などのものを織り練等するものなり

とりの木石金寺と造る社前の建る物なり門の形とつる類は木大け三四寸まじりば灌木なり



おほい水竹紫陽花の細長し畳の表となるものなり



つらひの海川湖水を生く二角のり足多く人の食用とする



おほい水竹紫陽花の細長し畳の表となるものなり



二第圖語單

<p>扇</p>	<p>口</p>	<p>机</p>	<p>工</p>
<p>造りてこれを焼く 家根と書し用 るものなり</p>	<p>くつゝハ鐵を つゞり馬の 口を敢びる者 なり</p>	<p>つゝハ木を造り 書を讀みしハ交 字の習ふものなり ゆる基なり</p>	<p>ともハ弓矢以て矢を射る とき左の手能く物と 柄をつゝんと三つ集りて 紋なり</p>
<p>馬</p>	<p>魚</p>	<p>盃</p>	<p>杖</p>
<p>ハ捧杯を以 て飲めば 其糟と肥 るものなり</p>	<p>いづハ海魚なり食 用するに油をとり 其糟と肥 るものなり</p>	<p>くつゝハ浴桶の派 中を生る物と 其根地ハ人の食 用するものなり</p>	<p>つゝハ木竹を以て 鐵等をして造る足の 弱人の歩行を扶る ものなり</p>
<p>鉞</p>	<p>魚</p>	<p>盃</p>	<p>杖</p>

<p>家</p>	<p>竹</p>	<p>樹</p>	<p>馬</p>
<p>造りてこれを くちくちと 音と書し るものなり</p>	<p>ふゝハ竹を 造りてこれを くちくちと 音と書し るものなり</p>	<p>あゝハ樹を 造りてこれを くちくちと 音と書し るものなり</p>	<p>このきハ大 木なる木と し雜木なり 御木等なり</p>
<p>竹</p>	<p>竹</p>	<p>樹</p>	<p>馬</p>
<p>いハ雨露と際 ぐたりに建其 うちハ人の住居 なり</p>	<p>似たる物 其實と食用 なり</p>	<p>あゝハ樹を 造りてこれを くちくちと 音と書し るものなり</p>	<p>あゝハ額なり 佛に願ひて事 成就の時 なる者なり</p>
<p>竹</p>	<p>竹</p>	<p>樹</p>	<p>馬</p>
<p>かハ稲の若芽を四月頃 と時き五月ころ芽を 出一切の物も人の植る ものハ苗と称す</p>	<p>かゝハ銅を 鑄たるものなり 物と煮る器 なり</p>	<p>あゝハ樹を 造りてこれを くちくちと 音と書し るものなり</p>	<p>あゝハ額なり 佛に願ひて事 成就の時 なる者なり</p>

くわい百姓の道具
なり頭を鋸で造り
木の柄を造りて田
畑を耕びて用也

才

織り糸の糸又ハ
織り毛の製は都
て機を以て織り
織物このム
織つる糸を以て
のうへを腰にて
めるものなり



持ててハ奥山往
み他の獸をも食
又時を以てハ人をも
食ふ惡獸なり



織り糸の糸又ハ
織り毛の製は都
て機を以て織り
織物このム



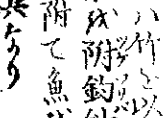
どのハ鐵で造り
木の柄を嵌りて
代り割木を割る
等々用道具あり



水馬を以てハ
美く定儀
ねる鳥なり

と折り紙ハ紙
を折りて造り
文字又ハ画杯ハ
つくものなり

竹ハ竹を以て
糸を以て釣針
杖も附て魚を
釣具なり



水中に生る
鱈魚のなる



おまけの草と
して葉一枚
なり又其葉
最大なり

赤



の口の頭の
前目鼻口
耳等のなる
赤なり



ほふなきハ草
生する実してハ
月頃色真赤なる
小女是ハ珠

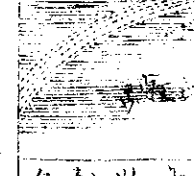


朝花なり夏早
朝一ささ十時
ころあはむ



野山に棲む鳥なり
其羽美麗ハ啼度
一層なる代つる

生する実してハ
月頃色真赤なる
小女是ハ珠



物日の光り移り
か以故朝ハ西見ゆ
夕ハ東見ゆ

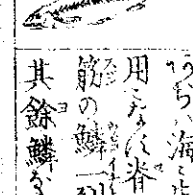


の高山を駈け
國より其鳥を
三阿ゆると云

チ



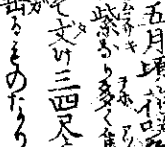



木ノ葉の霜
當るを赤く
なるを云



ふちの
花
冬枯

三第圖語單

 <p>稲</p>	 <p>葡萄</p>	 <p>蜜柑</p>	 <p>柿</p>	 <p>魚</p>	 <p>鈴</p>	 <p>鳥</p>	 <p>雀</p>
<p>いねハ米の 生る畑 十月頃 取り</p>	<p>月頃 養ふ物 酒と是を造る</p>	<p>みりんハ五月頃花咲 木の實ハ秋終春の 間食ハ九州雲州の 産ハ名物と云</p>	<p>つばハ木と生ると八月頃赤 く熟すと人の食ふ物と云 其味甘し又干したるものハ 翌年の梅雨頃迄保つなり</p>	<p>こもハ木の實 かり七月頃人 の食ふ物と云 其味甘し</p>	<p>かざハ川湖水と生れ 脊黒頭白く頭と口 大く鱗なき魚なり 人食用と云</p>	<p>まハ鎮鑰と云造り 中と空して鉛丸と肉 入れ振りおくと器 なり</p>	<p>まハ小鳥を 多く人里住 鳥多し寒中 食ハ能はる云</p>
 <p>茄子</p>	 <p>枇杷</p>	 <p>石榴</p>	 <p>林檎</p>	 <p>水呑</p>	 <p>鶏</p>	 <p>鶏</p>	 <p>雀</p>
<p>なまはハ畑 作ハ六月頃 人の食用と云 すものあり</p>	<p>枇杷 花咲五月頃 熟し人の食ふ物多 其味甘し</p>	<p>どくハ木の實なり皮の 内ハ小粒数有り八月頃 熟ると時爛破る物なり 其味酸し</p>	<p>りんハ木と生ると 生ると四月頃 花咲七月頃食 用と云</p>	<p>くりハ八月頃毛細の 物より破れ落ちて 人の食ふものなり 木の實なり</p>	<p>みづのみハ陶器 又ハ硝子と云 造り水と呑む 器なり</p>	<p>みづのみハ陶器 又ハ硝子と云 造り水と呑む 器なり</p>	<p>まハ小鳥と云 杯住ハ其牙以て 物と云又白鼠の一種 ハ人の畜ふものなり</p>
 <p>大豆</p>	 <p>枇杷</p>	 <p>石榴</p>	 <p>林檎</p>	 <p>水呑</p>	 <p>鶏</p>	 <p>鶏</p>	 <p>雀</p>
<p>はげハ畑と作 蔓州と云七月 頃より食用と云 る豆なり</p>	<p>枇杷 花咲五月頃 熟し人の食ふ物多 其味甘し</p>	<p>どくハ木の實なり皮の 内ハ小粒数有り八月頃 熟ると時爛破る物なり 其味酸し</p>	<p>りんハ木と生ると 生ると四月頃 花咲七月頃食 用と云</p>	<p>くりハ八月頃毛細の 物より破れ落ちて 人の食ふものなり 木の實なり</p>	<p>みづのみハ陶器 又ハ硝子と云 造り水と呑む 器なり</p>	<p>みづのみハ陶器 又ハ硝子と云 造り水と呑む 器なり</p>	<p>まハ小鳥と云 杯住ハ其牙以て 物と云又白鼠の一種 ハ人の畜ふものなり</p>

單語圖第四

<p>て造り 湯茶と 沸い物 なり</p>		<p>ゴ ボウ 牛蒡</p> 		<p>鐵瓶</p> 	<p>このまどハ土を 造り銅金作り 火とともとの なり</p>	<p>おぼりハ四月八月の兩度 種と蒔き作り野菜 年中にれど冬の頃と能 とむ食用するん</p>	<p>ひんがしハ畑 作り年中食物 のか味まつる ものなり</p>	<p>少んらんハ畑 作り五月頃 食する物なり 其色黄なり</p>	<p>項最も多俗 草と云松茸 茸等の如食 て香又味</p>	<p>こくんとハ畑作る 蔓艸として暑中食 る物なり外 く中赤</p>	<p>キウリ 胡瓜 コウワ</p>  <p>きりりハ畑 作る蔓艸 六月頃より人の 食用するん</p>
<p>つるひんハ鐵と 鑄て造り火鉢 掛けて湯茶と 沸を物なり</p>		<p>いもハ畑作り三四月頃古芋 ハ植ハ八月ころより新芋と 食ハ又葉ハ乾して年中食ふ 是とすいさといふ</p>	<p>芋</p> 	<p>土瓶</p> 	<p>このまどハ鐵と 鑄て造り食 る物なり</p>	<p>おぼりハ畑作り野菜 年中にれども冬ハ 畑作り土中より 出白く先青</p>	<p>はらこハ畑作り九月 頃食味なる 似る形もなるの 根作り食用するん</p>	<p>燕</p> 	<p>薤薤</p> 	<p>又タケ たけのこハ竹の秋生て 四月頃より竹の根生 る物なり丈二三又の間 ハ人の食するものなり</p>	<p>南瓜</p>  <p>のぼちハ畑 作る蔓艸 七月頃より人の 食用するん</p>
<p>湯茶と沸い 物なり</p>		<p>まんらんハ池沼泥中 生ハ七月頃花咲 根作り秋より冬春と 食ハ林中穴節</p>	<p>蓮根</p> 	<p>湯茶と沸い 物なり</p>	<p>茶釜</p> 	<p>胡蘿蔔</p> 	<p>胡蘿蔔</p> 	<p>草</p> 	<p>樹木 の下生</p> 	<p>西瓜</p> 	
<p>湯茶と沸い 物なり</p>		<p>九月</p>	<p>樹木 の下生</p>	<p>湯茶と沸い 物なり</p>	<p>茶釜</p>	<p>樹木 の下生</p>	<p>樹木 の下生</p>	<p>樹木 の下生</p>	<p>樹木 の下生</p>	<p>樹木 の下生</p>	<p>樹木 の下生</p>

小葉入内復

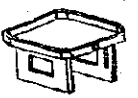
たへハ鐵よりハ磨
金等を鑄て造り
食もつバ煮る器
たるハ木より造り
蓋をのこく固め
酒醋醬油等と入
る物なり
紅らハ金又ハ木
陶器等と造り
灰とれ其中灰
と貯る物なり



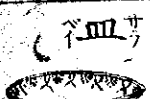
ますハ木より造り穀物又ハ酒油
等と貯る器なり一升とる升ハ
口四寸九分四方深さ二寸七分米粒
六万四千八百二十七粒容



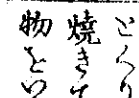
膳
ぜんハ木より造り漆
とめり椀皿茶碗
等ノ具とのなる物
えんハ木とけどうて
造り漆とめり
食ものバ盛る器物
なり



茶碗
ちやんハ土と焼
きて造り食物又
ハ飲もの盛る器
物なり
皿
さうハ土と焼きて造
り食物と盛る器と
器なり
徳利
どくりハ土と
焼きて造り香
物とつねる物
なり
鐘
つがハ土と
焼て造り種々
の食物と入
る器なり

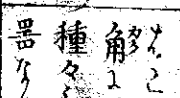


鉢
あつハハ硝子
して造り酒又ハ
水等と呑む器
なり
さうハ土と焼きて
造り酒と呑む
器なり
徳利
どくりハ土と
焼きて造り香
物とつねる物
なり
鐘
つがハ土と
焼て造り種々
の食物と入
る器なり

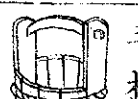


庖刀
えんハ木より
鉄と鋼とを
造り食物等と
斬る物なり
箱
ておけハ木より
竹の箆を以て固め
上ニ手より提歩行
水と汲む物なり
種々ハ木より
角つくりて
種々との入る
器なり
柄杓
おけハ木
より造り水
の類と入る
物なり

手桶
ておけハ木より
竹の箆を以て固め
上ニ手より提歩行
水と汲む物なり
種々ハ木より
角つくりて
種々との入る
器なり
柄杓
おけハ木
より造り水
の類と入る
物なり



ひやくハ木
又ハ竹より造り
柄とて水と
汲む物なり
手桶
ておけハ木より
竹の箆を以て固め
上ニ手より提歩行
水と汲む物なり
種々ハ木より
角つくりて
種々との入る
器なり
柄杓
おけハ木
より造り水
の類と入る
物なり



五第圖語單

 <p>籃 割是と竹と細く丸くする種々の物と入り</p>	<p>紙 紙を製して製し板木を種々の字と指り入の是と讀むためなる物なり</p> 	<p>のみの楮の皮を削りて製し書と書く時と用ゆる物なり</p> 
 <p>鈞瓶 はらぬ木又銅と造り井より水と汲上る物なり</p>	<p>ふで、羊毫、狸等木の柄を作り字と書し用る</p> 	<p>硯 造り水と入れ墨とすも用ゆる物なり</p> 
<p>本 すなわち油煙を固く製し字と書く時と用ゆる物なり</p> 	<p>墨 造り水と入れ墨とすも用ゆる物なり</p> 	<p>筆 すなわち石を造り水と入れ墨とすも用ゆる物なり</p> 
<p>なんすい木と造り衣類等ハ道具等と入り物なり</p>	<p>椅子 </p>	<p>腰かけ物 はらぬ木と藤を造り腰とかけ物なり</p>
<p>鏡 </p>	<p>つらみ、青銅 又ハ硝子も造り水銀を塗りみがかして我が形と写しそのたより</p>	<p>剪 鋼を造り物を剪り切る時と用ゆる</p> 
<p>えさみ、鉄 鋼を造り物を剪り切る時と用ゆる</p>	<p>琴 </p>	<p>あとハ、臺と桐の木と造り十三の絃と絃け是を弾き歌は唱ふる器なり</p>
<p>太鼓 </p>	<p>たはらぬ木の桶 馬の革と張り是を打つ時と知らる物なり又神支等と用ゆる</p>	<p>らんどうハ木と作り障子と附紙と張り夜は盃代載せ油と入火と燃て明り取り物なり</p>
<p>提燈 </p>	<p>あちちうちんハ竹と細く割りて紙と張り夜は行ると時と火は燃て持取り物なり</p>	<p>火入と灰 吹あり煙 草と呑む時 二用也</p>
<p>提燈 あちちうちんハ竹と細く割りて紙と張り夜は行ると時と火は燃て持取り物なり</p>	<p>煙草 盆 たはらぬ木と造り</p>	<p>提燈 あちちうちんハ竹と細く割りて紙と張り夜は行ると時と火は燃て持取り物なり</p>
<p>提燈 あちちうちんハ竹と細く割りて紙と張り夜は行ると時と火は燃て持取り物なり</p>	<p>提燈 あちちうちんハ竹と細く割りて紙と張り夜は行ると時と火は燃て持取り物なり</p>	<p>提燈 あちちうちんハ竹と細く割りて紙と張り夜は行ると時と火は燃て持取り物なり</p>

<p>提燈 あちちうちんハ竹と細く割りて紙と張り夜は行ると時と火は燃て持取り物なり</p>	<p>提燈 あちちうちんハ竹と細く割りて紙と張り夜は行ると時と火は燃て持取り物なり</p>	<p>提燈 あちちうちんハ竹と細く割りて紙と張り夜は行ると時と火は燃て持取り物なり</p>	<p>提燈 あちちうちんハ竹と細く割りて紙と張り夜は行ると時と火は燃て持取り物なり</p>	<p>提燈 あちちうちんハ竹と細く割りて紙と張り夜は行ると時と火は燃て持取り物なり</p>	<p>提燈 あちちうちんハ竹と細く割りて紙と張り夜は行ると時と火は燃て持取り物なり</p>
<p>提燈 あちちうちんハ竹と細く割りて紙と張り夜は行ると時と火は燃て持取り物なり</p>	<p>提燈 あちちうちんハ竹と細く割りて紙と張り夜は行ると時と火は燃て持取り物なり</p>	<p>提燈 あちちうちんハ竹と細く割りて紙と張り夜は行ると時と火は燃て持取り物なり</p>	<p>提燈 あちちうちんハ竹と細く割りて紙と張り夜は行ると時と火は燃て持取り物なり</p>	<p>提燈 あちちうちんハ竹と細く割りて紙と張り夜は行ると時と火は燃て持取り物なり</p>	<p>提燈 あちちうちんハ竹と細く割りて紙と張り夜は行ると時と火は燃て持取り物なり</p>
<p>提燈 あちちうちんハ竹と細く割りて紙と張り夜は行ると時と火は燃て持取り物なり</p>	<p>提燈 あちちうちんハ竹と細く割りて紙と張り夜は行ると時と火は燃て持取り物なり</p>	<p>提燈 あちちうちんハ竹と細く割りて紙と張り夜は行ると時と火は燃て持取り物なり</p>	<p>提燈 あちちうちんハ竹と細く割りて紙と張り夜は行ると時と火は燃て持取り物なり</p>	<p>提燈 あちちうちんハ竹と細く割りて紙と張り夜は行ると時と火は燃て持取り物なり</p>	<p>提燈 あちちうちんハ竹と細く割りて紙と張り夜は行ると時と火は燃て持取り物なり</p>
<p>提燈 あちちうちんハ竹と細く割りて紙と張り夜は行ると時と火は燃て持取り物なり</p>	<p>提燈 あちちうちんハ竹と細く割りて紙と張り夜は行ると時と火は燃て持取り物なり</p>	<p>提燈 あちちうちんハ竹と細く割りて紙と張り夜は行ると時と火は燃て持取り物なり</p>	<p>提燈 あちちうちんハ竹と細く割りて紙と張り夜は行ると時と火は燃て持取り物なり</p>	<p>提燈 あちちうちんハ竹と細く割りて紙と張り夜は行ると時と火は燃て持取り物なり</p>	<p>提燈 あちちうちんハ竹と細く割りて紙と張り夜は行ると時と火は燃て持取り物なり</p>
<p>提燈 あちちうちんハ竹と細く割りて紙と張り夜は行ると時と火は燃て持取り物なり</p>	<p>提燈 あちちうちんハ竹と細く割りて紙と張り夜は行ると時と火は燃て持取り物なり</p>	<p>提燈 あちちうちんハ竹と細く割りて紙と張り夜は行ると時と火は燃て持取り物なり</p>	<p>提燈 あちちうちんハ竹と細く割りて紙と張り夜は行ると時と火は燃て持取り物なり</p>	<p>提燈 あちちうちんハ竹と細く割りて紙と張り夜は行ると時と火は燃て持取り物なり</p>	<p>提燈 あちちうちんハ竹と細く割りて紙と張り夜は行ると時と火は燃て持取り物なり</p>

六第圖語單

<p>算盤 そろばん</p> 	<p>ト名くハ鉄鋼 の平金と細き針 の上ニ載セ方角 と量道具ナリ</p>	<p>泥濘 泥濘 通行 時足 物ナリ</p>	<p>張り油とふき雨天 歩行 為ニ持つ物ナリ</p>	<p>そろばんハ木と 竹にて造リ諸の 數と算用ニ 時ニ用也</p>	<p>寒暖計 寒暖計</p> 	<p>さのたハ獸の華と疊 にて造リ晴天の時足 ニ用也</p>	<p>竹の皮をてつくり 頭ニ戴日光を避 ルニ用也</p>	<p>時計 とけいハ鐵鋼を 等して造リ昼夜旋 回し時を計る用也 形も種々ナリ</p> 	<p>うんだんけいハ硝子の管 ニ水銀を入れ其水銀 の昇降を見テ寒暖を以 テる器ナリ</p>	<p>くろハ獸の華 にてつくり晴天 ニ用也</p>	<p>木を造 り鼻緒 松すげて</p> 	<p>着物 着物</p> 	<p>浴衣 浴衣</p> 	<p>立帯より下ニ着る 礼服用</p>	<p>トゆかんハ木綿 又ハ縮緬にて丈け 短く仕立肌を着る 物ナリ</p>	<p>石 石</p> 	<p>げんハ 木を造 り鼻緒 松すげて</p>	<p>くろハ獸の華 にてつくり晴天 ニ用也</p>	<p>くろハ獸の華 にてつくり晴天 ニ用也</p>	<p>まんのハ絹木綿又ハ 麻布毛織も仕立 立帯に體軀ニ服 衣類と云</p>	<p>まんのハ絹木綿又ハ 麻布毛織も仕立 立帯に體軀ニ服 衣類と云</p>	<p>まんのハ絹木綿又ハ 麻布毛織も仕立 立帯に體軀ニ服 衣類と云</p>	<p>まんのハ絹木綿又ハ 麻布毛織も仕立 立帯に體軀ニ服 衣類と云</p>	<p>石 石</p>	<p>げんハ 木を造 り鼻緒 松すげて</p>	<p>くろハ獸の華 にてつくり晴天 ニ用也</p>	<p>くろハ獸の華 にてつくり晴天 ニ用也</p>	<p>織 織</p> 	<p>浴衣 浴衣</p> 	<p>まんのハ絹木綿又ハ 麻布毛織も仕立 立帯に體軀ニ服 衣類と云</p>	<p>まんのハ絹木綿又ハ 麻布毛織も仕立 立帯に體軀ニ服 衣類と云</p>	<p>石 石</p>	<p>げんハ 木を造 り鼻緒 松すげて</p>	<p>くろハ獸の華 にてつくり晴天 ニ用也</p>	<p>くろハ獸の華 にてつくり晴天 ニ用也</p>	<p>くろハ獸の華 にてつくり晴天 ニ用也</p>	<p>くろハ獸の華 にてつくり晴天 ニ用也</p>	<p>くろハ獸の華 にてつくり晴天 ニ用也</p>	<p>くろハ獸の華 にてつくり晴天 ニ用也</p>
--	--	--	------------------------------------	---	--	--	--------------------------------------	--	---	-----------------------------------	---	--	--	-------------------------	--	--	-------------------------------------	-----------------------------------	-----------------------------------	---	---	---	---	----------------	-------------------------------------	-----------------------------------	-----------------------------------	--	--	---	---	----------------	-------------------------------------	-----------------------------------	-----------------------------------	-----------------------------------	-----------------------------------	-----------------------------------	-----------------------------------

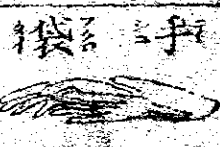
頭



縮面して立寒き
時頭を被るもの
たり



てぬぐひの木綿
を三尺計に切て
手をぬぐふに用
かる



てはくろハ羅紗靴
の革又莫大小等
て造り手穿る
物たり



とくひきハ木綿絹
又ハ莫大小等して
仕立体の下部と用
ゆる物たり



ちよつきハ羅紗
又ハ綿等して仕立
体の上部に着る
物たり



たぐハ木綿又
ハ獸の革して
仕立足もと物
たり



のほハ
前よ
くをく



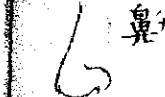
体の上部と
都て髪の手



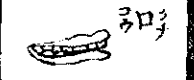
めハ顔の上部
と一側並に
物と見る後目



みハ頭の
両方より
聲と聞く
後目たり



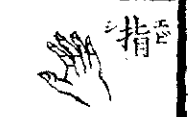
くハ顔の
正中より
物の氣を嗅ぐ
後目たり



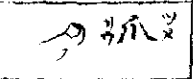
くらハ顔の下部
より食物と入
れ又ハ言語と護
る後目たり



てハ身体
の左右より
物と持つ後
目たり



むハ手の先
両方して十本
指と以てかん
指と以てかん



はれハ指の先手足
ともより指先の
ハ此爪より出
又爪と擦る



はハ二本
て立事とま
ハ歩行とま
可とも



せムハ年中
頃より出て
生し飛ぶ鳴虫なり
其種類多し



らんハ河中
生し性とし羽を
生し飛ぶ其種類
多し出たり



くハ其種類多し皆草木の
葉の虫性と之なるなり人と蝨
昆又一種蝨蜂なり草木の化と
吸来て蝨を製は其味至て上品なり



てハ草木の葉より
生る長き虫にして
羽を生し飛ぶ虫なり
種類至て多し



くハ種類多し、尻より細き糸を出し、網を張り飛ぶ虫と捉へて食ふ虫なり

むしハ体の長き虫、足多し、腐木又ハ土中の穴に居り人と螻蛄虫なり

このハ海又ハ川池等に居り、甲より四足有りて至て長命なりと云

たけハ幹の中空にして節有り、葉青く四時凌る事あり、家作し用也、又外も用ひ方多し



ハ種類多し、体の長き虫なり、野山に多く住む虫なり

うらハ種類多し、冬ハ土中に居り、四月頃より出て田又ハ池に喰ひ鳴く虫なり

このハ青葉の四時にも青葉の木のなり大樹有り、家作し用も水あり

むしハ紅白の二種有り、二月頃花咲き、至て其味積り、是と酢漬て壺中に貯へ置食用なり、其味酸し



かにハ海又ハ川池に生し、甲より足多し、人の食用なり

竹



つばきハ種々の色有り、多く春至て花ひらく、実ハ油を取つて香油に如し



やまぶきハ三月頃黄なる花開き、幹ハ青色中々白く柔き枝有り



さくらハ皇國の花にして、異國にハさくらと云、四月のころ花ひらく、至て美なり



げんハ五月頃花開き、多く白く、二種有り、異名花玉と云



花色種々あり、多くハ紫白あり、五月頃花開



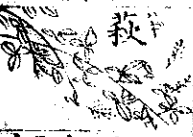
のりハ人の作り、又ハ自然に生し、五月頃花開く、其根ハ人の食用なり



やなぎハ種々有り、春に緑となり、物切板に用ひ

桔梗

ききんハ七月頃花開く、艸花なり、花菖蒲、色白又ハ薄紫の種あり、其根藥種用



あじさいハ八月頃花咲き、赤の二種有り、幹ハ庭の垣等に用ひ



單語圖第八

きくハ人の花種し
 植て染む花あり
 花色種々あり黄色
 ハ食用なり
 ぐんてんハ赤い
 実の生る物と大
 木ハ稀なり木色
 黄色なり
 花開く其葉
 葱以て平た



つらハ大なる鳥して足長
 く水邊に遊ぶ丹頂と雁
 名づくる一種ハ頭赤き
 毛り長壽ありと云



かりハ水鳥と足
 短く秋に北へ来り
 春又北へ去る寒國
 と好む鳥なり



たけハ猛き鳥
 て尖き爪と具
 諸鳥と捕り
 喰ふ鳥なり



とびハ角爪等
 鷹に似たり人里
 居に晴天ニ大空
 高く舞ふ
 ひとハ人里住
 ひとハ人里住
 ひとハ人里住

かハ羽色黒
 八里ニ住朝
 早く啼く鳥
 集り俗に



にわとりハ種類多く人家
 畜る鳥なり頭赤き冠
 能く時と取啼く卵又肉
 等と食用と補ふ物なり



ひとハ人里住
 ひとハ人里住
 ひとハ人里住



つらハ小鳥なり四月頃
 南より来り人家に巣と
 なり八月頃又南へ去る
 暖國を好む鳥なり



うくハひすハ小鳥なり
 一月頃より竹梅の林等
 一啼物なり其聲至て
 朗なり人畜て樂む



うハ大なる獸と力強
 く馬と同く人カと助
 角り又肉と食用なり
 時間一ニ方九十九百六
 時間一ニ方九十九百六



うハ大なる獸と力強
 く馬と同く人カと助
 角り又肉と食用なり
 時間一ニ方九十九百六



ねハ人
 家畜
 鼠と
 猫

さるハ人の面と似
 たる獸と山に住
 み能く木に登る
 手足其物と握る



うハ山に住
 又ハ人の畜る物なり
 毛色種々あり耳長
 く食用なり



くハ大
 なる獸
 毛色黒
 く冬ハ山

小野子八門更覽

一第圖語連

<p>親の母を 祖母といひ 親の姉妹と 伯母 叔母といひ</p>	<p>親の母を 祖母といひ 親の兄弟を 伯父</p>	<p>親愛と主と 兄弟の際に 友愛と</p>	<p>義を以て 人々を交るの 親子の間</p>	<p>靈かりの 善道に以て 身を脩め 信</p>	<p>神ハ 天地の主宰にして 人ハ 萬物の</p>	<p>祖父 祖母 父子 兄弟 姉妹 親愛 友愛</p>	<p>祖父 祖母 父子 兄弟 姉妹 親愛 友愛</p>	<p>祖父 祖母 父子 兄弟 姉妹 親愛 友愛</p>	<p>祖父 祖母 父子 兄弟 姉妹 親愛 友愛</p>	<p>祖父 祖母 父子 兄弟 姉妹 親愛 友愛</p>	<p>祖父 祖母 父子 兄弟 姉妹 親愛 友愛</p>
----------------------------------	----------------------------	------------------------	-------------------------	--------------------------	---------------------------	-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------



<p>少平な味金</p>	<p>魚</p>	<p>住む機</p>	<p>中の穴居</p>
<p>ひも又少い魚</p>	<p>魚</p>	<p>孤</p>	<p>鹿</p>
<p>魚と云泉水等畜</p>	<p>魚</p>	<p>色茶をうり 狡猾な</p>	<p>あつた山の中</p>
<p>魚は川魚か</p>	<p>魚</p>	<p>山の中</p>	<p>住む秋の末まで</p>
<p>魚は川魚か</p>	<p>魚</p>	<p>山の中</p>	<p>住む秋の末まで</p>
<p>魚は川魚か</p>	<p>魚</p>	<p>山の中</p>	<p>住む秋の末まで</p>

二第圖語連

學校 書物 手習 算術 事物 文字

授業 午前 午後 運動 遊歩
 學校へ出でると 書物を讀む 又手習をへり

○書物は事物の理を知り 手習は
 文字の形を學ぶの 授業の始ハ午

前七時 授業の終ると 午後三時

たり ○讀み書きの外を算術を
 學ぶへり ○遊歩を為ると 運動

のため運動を為ると 氣を散り 體を養ふが為
 運動の初めは 大書物を讀み 手習い 算術を學ぶ



其處 此處 何處 何時 往く 歸る

彼の 此の 彼の 是 近き 遠き 町里

朋友 親類 學問 知識 家業 富

君ハ其處に居て書物を讀み予ハ此處に
 在りて手習す○彼の小兒と何處へ往き

や此女子ハ何時歸りて○彼ハ近き所の



朋友の宅に往き是ハ遠き處の親類の家より歸る○
 近き處ハ二三町を過ぎ 遠き處ハ五六里を餘り 彼の

朋友ハ常に學問と好む是の親類ハ能く家業を勤む○
 學問を好りハ知識を増し 家業を勤めて富を致す

三第圖語連

四第圖語連

地球 日 月 晝 夜 今年 去年 春
 夏 秋 冬 東 西 南 北 風 雨
 霜 雪 寒 暑 雷 林 叢 花開 蟲鳴
 地球を日を回りて轉り月ハ地球に隨ひて環る。日の
 ある間を晝といひ日の隠れて後を夜といふ。朝日
 のかゝると東より夕日の方と西といふ。去年の秋ハ
 冷よりて霜早く今年春ハ暖よりて雨もくわ
 春の日の林ハ花開き秋の夕ハ叢ハ蟲鳴く。夏ハ南風
 多く冬ハ北風多し。夏ハ暑くしてをりく雷鳴り冬と
 寒くしてときく雪降る暑き時ハ草木茂り寒き時ハ泉凍る

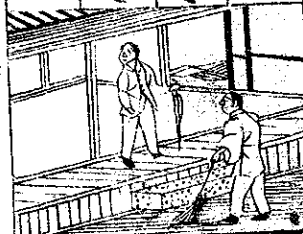
五第圖語連

穀類 魚類 獸肉 鳥肉 野菜 藥物
 氷 乳汁 酒 煙草 養生 健康 勉強
 日本の人ハ常に穀類魚類を食し西洋の人ハ常に
 獸肉鳥肉を食す。野菜ハ煮たる
 を食ふべし菓物を熱せざるを食
 ふべし。水と乳汁ハ健康を
 たすけ酒と烟草ハ養生ハ害なり。
 勉強ハ健康より生り健康ハ養生
 より来る。養生の人ハ食物と飲
 物をえりて勉強の者と朝寢と晝寢を戒む



六第圖語連

衣服 木綿 麻 絹 毛織 單 帷子
 袴 綿入 襦袢 羽織 絹 袴 長袴
 足駄 草履 履



衣服の料ハ木綿なり又麻、絹、毛織あり
 暑き時ハ薄き衣服を著寒き時ハ厚き
 衣服を著るハ薄きハ單、帷子と厚きと
 袴、綿入なり○袴ハ合せたるもの綿入ハ
 綿を入きたるなり○肌ニ貼くるハ襦袢とて表ニ服と
 ハ羽織なり○帽をかぶり袴と著るハ雨の時ハ足駄ととき
 又長靴とけく晴の日ハ草履を用ゐ又履ととく

七第圖語連

大工 左官 家柱 壁 屋根 下地 軒 中塗 上塗
 棚 押入 畳 建具 木瓦 石机 書架 墨硯 筆
 紙 和漢 西洋 庭池 春秋 景色 朝夕 眺望
 大工 家を造り 左官 壁を塗る○家ハ柱を立て、後
 屋根をふき 壁ハ下地を作りて 後土をぬる○屋根より
 軒をつけ 中塗より 上塗をぬる○棚、押入とけ 畳、建具
 を入る○我邦の家ハ 木を作り 西洋の家ハ 瓦石を疊む
 ○前ニ机と居ゑ 後ニ書架と置く○机ハ 墨硯、筆紙と載せ
 書架ハ 和漢、西洋の書と積めり○庭ハ 花と栽ゑ
 池ニ多くの 魚と畜ふ○春秋の景色とて 朝夕の眺望とて

八第圖語連

起 臥 饑 飽 賢 愚 富 貧 老 幼
 教 問 堪 覺 藝 術 厭 急 緩 徒
 步 躓 疲 無 益 有 用 珍 賤 弄 棄
 朝ハ五時ニ起き夜ハ十時ニ卧モ働ク時ハ勞ト厭ハズ食スル
 ときハ飽クを求め夜ハ賢キ人ノ事ヲ習ヒ愚
 ナル人ノ物ヲ教ム○知らぬ事ハ知リし者
 人ノ問クを恥ぢレ○覺テハ藝ハ覺テぬ者
 誨ルを厭ハズ○急ニ走るときハ速キとも躓クことナリ緩
 ク歩むときハ遅けれども疲ラズこと少ク○無益ノ物ハ珍シト
 雖弄ムべし有用ノ品ハ賤ト雖棄つべし



九第圖語連

前 後 左 右 勉 情 難 易 早 遲 破 堅 固
 長 短 強 弱 優 劣 剛 柔 曲 折 捷 逆
 まての事 前ノものトシテ 後ニ必ズ成ル事ナリ 左ニ乃
 ミあぐまバ 右ニ必ヒきくちなる○勉むるとハ 情らぬこと
 情らとハ 勉めぬこと○勉むる時ハ かくき事も成リ易ク
 情る時ハ 易きことも成リ難ク○早く成るものハ 破キ易ク
 遅く成るものハ 堅固ナリ○長きものは 反シテ 短きもの
 劣る事ナリ 弱きを守るバ 遂ニ強ク優ることもあり○剛き
 ものハ 折ルことナリ 柔なるものハ 曲ルことナリ 撓ムバ
 折らハ 剛ノ徳 曲ラズ逆ラハ 柔ノ徳ナリ

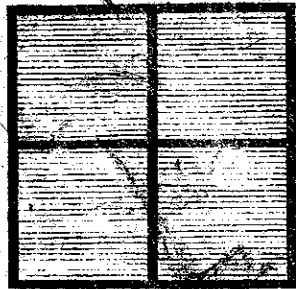
十第圖語連

秤目ハ十毛と一釐とひひ。十釐と一分とひひ。十分と一釐とひひ。千匁と一貫目とひひなり
 尺の名ハ十毛と一釐とひひ。十釐と一分とひひ。十分と一釐とひひ。十寸を一尺とひひ。十尺を一丈とひひなり
 一升とひひ。十升を一斗とひひ。十斗を一合とひひ。十合を一石とひひ。十石を一石とひひ。又一步とひひ。三十歩と一畝とひひ。十畝を一畝とひひ。十畝を一町とひひ。三十六町を一哩とひひ
 略程ハ六十間を一町とひひ。三十六町を一哩とひひ

圖ノ度及線

<p>直線  ちよくかくせいの二つの直線相交する時ハ生ずる角を直線</p>	<p>縦線  まよあうせいのたつの両点の方向をさへる物とひひ</p>	<p>折線  せつせんハ折めのたる線とひひ</p>	<p>直線  ちよくせんハ两点の間をさへる物とひひ</p>
<p>並行線  へいかせいの二つの線は同程長き物とひひ</p>	<p>斜線  まよせんハ縦線の少くもる物とひひ</p>	<p>螺線  らせんハねとれたる線とひひ</p>	<p>曲線  まきりせんハ点毎に方向をさへる物とひひ</p>
<p>交線  ちよくせんハ二つの線が交りたる物とひひ</p>	<p>平線  へいせんハ横の両点の方向をさへる物とひひ</p>	<p>渦線  あせんハ水のうず巻に似たる線とひひ</p>	<p>波線  はせんハ曲線の急な曲りたるあり</p>

方平寸二



二寸四方
二寸平方
なるもの



二寸平方
なるもの

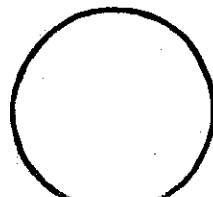


四角
なるもの

直徑五分ノ環



五分の
なるもの



圓き物
の周り
四寸なる
なり

五分平方
一寸平方



四角
なるもの



五分
なるもの

周邊四寸ノ環

短徑



長けい長き
濃短けい
いみかき
渡りなり

半徑



えんけい丸
き物折半
是二線と
引とす

弧



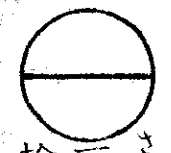
いなる物
ハ四形のが
けいなり

直角



ちよかくハ
縦線と平
線と折合
角なり

直徑一寸ノ環



一寸の円
輪なり

周邊



まうへんハ都て曲
線と此曲線
の諸点ハ四の中
心より等距離
離を保つなり

弦



いなる物
四き物の中
にありて引
線なり

鋭角



多んが
直角より小
なり物なり

直徑七分ノ環



七分のさ
渡りなる
輪なり

同心環



まうへんハ四
の中真を差せ
て幾個も環の
重なりなり

直徑













周圍

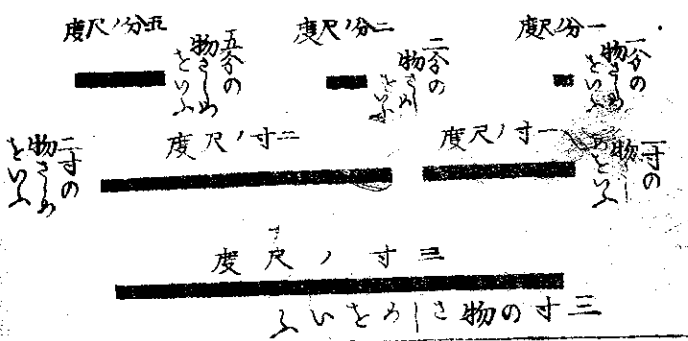
鈍角



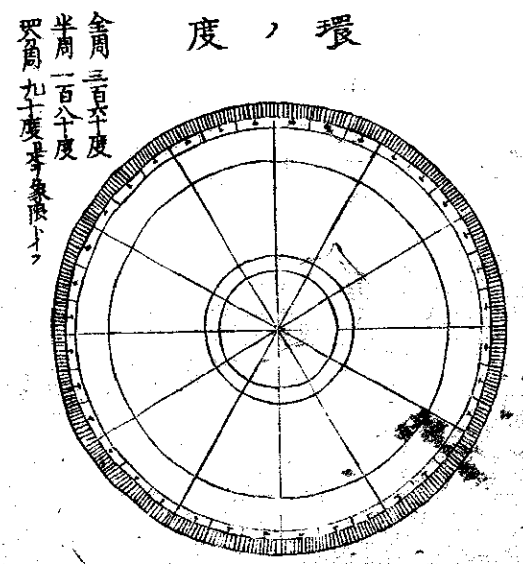
鈍角

面及體ノ圖

<p>勾股形 一日直三角形 あうとけい ハ二つの直 角を保つ物 なり</p> 	<p>二等邊 三角形 一日圭形 けいけいハ 二つの等し 辺を保つ物 同さるゝ</p> 	<p>六角 六邊形 ろくかくハ 六邊共ニ等 しきを保 つ物なり</p> 	<p>三角 三角形 さんかくハ 三つの等し きを保つ物 なり</p> 
<p>長方形 一日直形 ちうけいハ けいハ捷 長き角と なり</p> 	<p>不等邊 三角形 フツツ 一日三斜形 さんしやけ いハ三つの 辺共ニ等し き</p> 	<p>七角 七邊形 しちかくハ 七邊共ニ等 しきを保 つ物なり</p> 	<p>又曰四角 四邊形 よっかくハ 四つの等し きを保つ 物の直角と保 つ物なり</p> 
		<p>八角 八邊形 はちかくハ 八邊共ニ等 しきを保 つ物なり</p> 	<p>五角 五角形 ごかくハ 五邊共ニ等 しきを保 つ物なり</p> 



環ノ度



圓ノ輪ノ度数の「なり

全角三百六十度
半角一百八十度
四角九十度

斜方形



一曰平行四邊形
四角形の少
横にありたるをいふ

不等邊斜方形



一曰四斜方
二辺毎に等し
くは四角
の少をいふ



不等邊直線斜方形
一曰半梯形
二角直線と二角直
角を有斜角なるをいふ

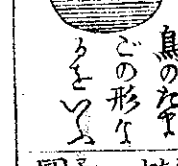
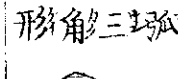


上平二辺平
行と左右の
二辺斜形をいふ



三角形

二斜線
の二辺
の形をいふ



平面の切
と三分合
の形をいふ

鳥のなま
ごの形をいふ

日き物の少
一長
き物をいふ

俗小形をいふ

平面の切
と三分合
の形をいふ

半圓



平面の切
と三分合
の形をいふ



大陰曆の
三日四日
の月の形
をいふ

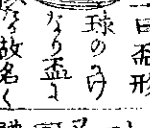


圓形の
中真空
ある形
をいふ

半圓
又半
球の
體をいふ



球の半を
割たる
物といふ

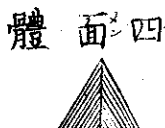


球ハ田く手鉄の如き形
といふ体ハ實積り者
といふ平面の形と云はば
上下備る体といふ

圓體



長く圓き形
なり即米俵
又蚕繭の如き
形あり

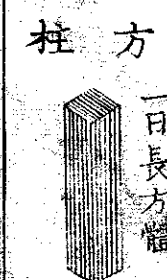


三角の形
四つ集りて
体となり
物なり

上下四方
同辺の六
方体といふ



一曰三稜體
上下三角
よりて長
き立する体
をいふ



一曰長方體
上下四角
よりて長
き立する体
をいふ

圓體



長く圓き形
なり即米俵
又蚕繭の如き
形あり



三角の形
四つ集りて
体となり
物なり

上下四方
同辺の六
方体といふ



一曰三稜體
上下三角
よりて長
き立する体
をいふ

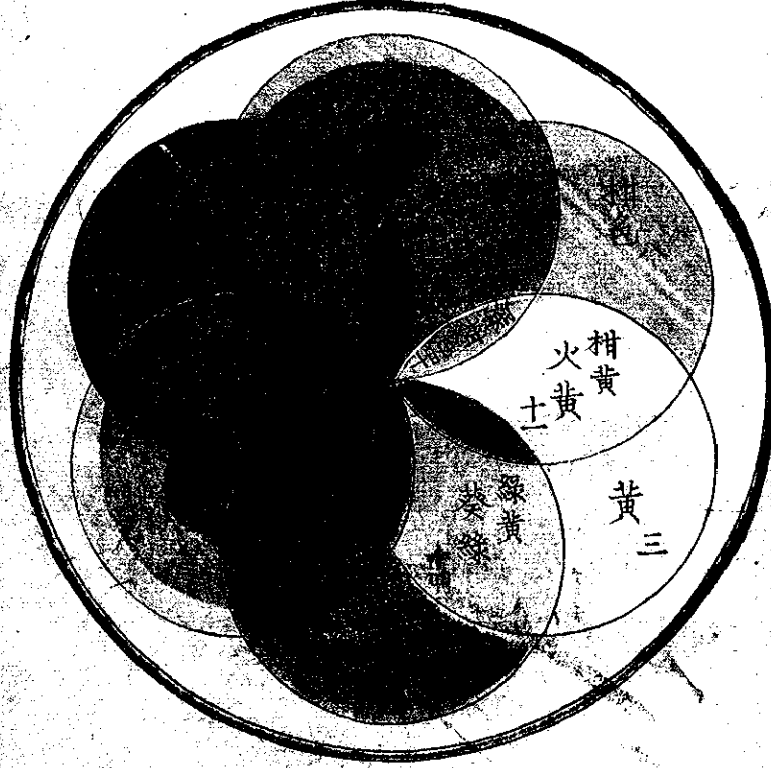


一曰長方體
上下四角
よりて長
き立する体
をいふ

色圖

七年
改正

文部省



圓柱



一日長圓體

上下四形

より
より
より
より
より
より

圓錐體

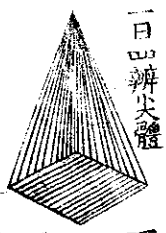
一日三辨尖體



下面三角より

より
より
より
より
より
より

方錐體



一日四辨尖體

下面四角より

より
より
より
より
より
より

圓錐體

一日尖圓體



下面四形より

より
より
より
より
より
より

體操圖解

淡色 とうそ色の檸檬の
更浅色をいふ
卵色 たまご色の極めて浅
極めて浅色をいふ
縹色 せう色の青属一紺の浅
紅青の少一濃色をいふ

淡青 ちやうあけの青色の更薄を云
水色 みづいろの青色の極めて薄を云
鮮色 さけいろの柑色の少
薄さをいふ

朽葉色 こちはいろの柑色の濃さをいふ
黒帯をいふ
鮮色 さけいろの柑色の少
薄さをいふ

火黄 ほんがき さまの柑色を黄
色に交へていふ
酒色 ちやうあけの柑色の
薄さをいふ
椒橙色 かつらぎ色の緑色と紫色の
相加して成る色をいふ

鴨嶋緑 あひむらさきの緑の少
黄の交りたるをいふ
菜豆緑 ぶんとうの緑のみどり色と黒
を少一帯ひたるをいふ

淡緑 うすあざの淡色をいふ
深紫 ふくろひくさばの紫の極々
濃色をいふ

薄藤 うすあざの藤色の又
更薄さをいふ
栗色 くりいろの栗色の黒さの少一黒
を交へていふ

櫻色 とうきり色の黒と少
帯ひたる色をいふ
紫橙色 むらさきとあけの色の柑色と
紫と交へていふ

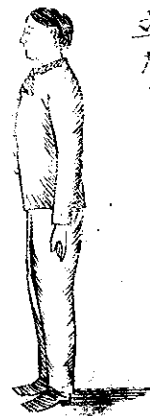
丁子色 てうじいろの櫻色の浅色
柑色の少一黒と交へていふ
灰色 せういろの白色と黒と少一帯
ひたる色をいふ

葵緑 あいぎの緑のみどり色より
少一薄さをいふ
緑青色 ろくあざの色の緑の更濃
きをいふ

椒紫色 かつらぎ色の椒橙色と紫と少
一帯ひたる色をいふ
深柑色 ぶりがん色の緋と火黄と交へていふ
柑色の更濃色をいふ

夫を體操の用たるや身體を健全より鬱憂を暢達せらる
尤を缺くへうさるの妙術なり豈戯の業よりあらずを
依りて聊其意を示せ
図をる如一図毎二(下)より十二までの殆令小随ひ手足
體の運轉をすすべし猶委く其師小就て學ぶ
べし

(一) たいと正しく真直マシダに
立タたタり



真立整頭マシダシヨウジュウ

(三) 左右の手を入イれレ曲カり
延ノびビたり



双手更換屈曲ソウジウカワヘカマシキョク

(二) 両手リウテと同時ドウジに左右サダへ
延ノびビたり



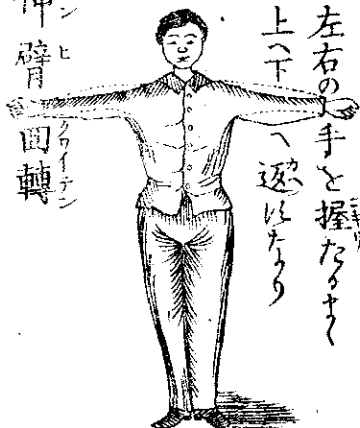
両臂左リウビサ右關伸ウチケイシン

(四) 左右の肩カダと上げアげアげ
延ノびビたり



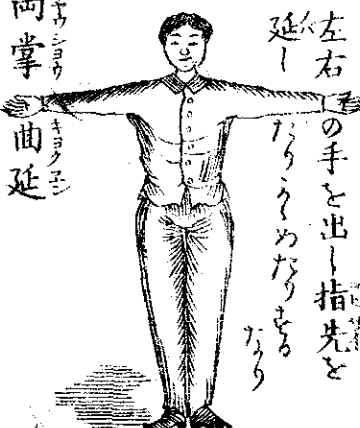
両肩聳リウケンソウ卸ツキ

(五) 左右の手テと握ニギりニたタりタり
上ウ上シ下ゲへ返マりリたり



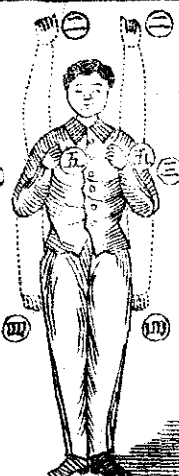
伸臂回轉シンビクワテン

(六) 左右の手テを出デし指先ササギと
延ノびビたり



両掌曲延リウテウキョウエン

(七) 両の手テを上下ウジョウへ
つツくクたり



両手上下リウテウジョウ

(八) 左右の手テと前マへ延ノびビたり



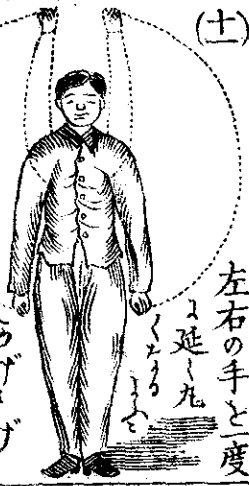
両手前衝植胸リウテマエウツキウチ

(九) 左右の手を一度前へ出
 又ハ直ぐよかひりたるなり



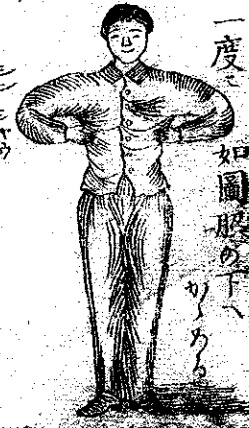
前同

(十) 左右の手と度
 延く九
 けまらなり



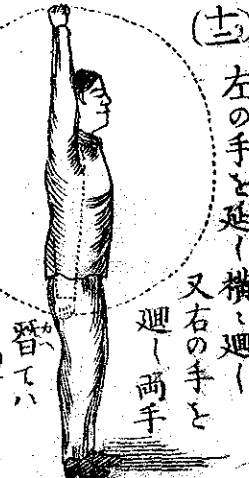
両手左右高伸
 カウニシ
 まらなり

(十一) 左右の手と度延く又ハ
 一度
 如圖形の下
 かりなり



両手肘衝
 シンニシ

(十二) 左の手と延く横と廻
 又右の手と
 廻く両手
 晋てハ
 廻はなり



両手回環
 カウニシ

(十三) 面片左へ向け又右へ向け
 たるなり



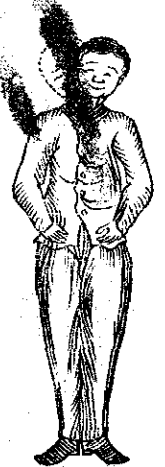
頭首左右轉
 トウシユサ
 ヲウニシ

(十四) 頭を前後へふるなり



頭首前後轉
 トウシユビシ
 ゴニシ

(十五) 頭を左右へふるなり



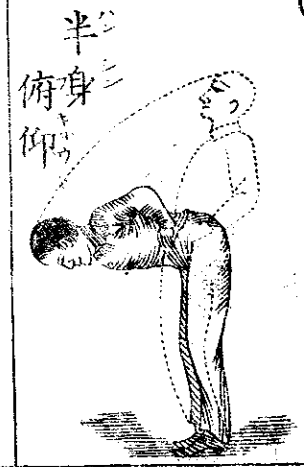
上同

(十六) 腰より上と左右へふるなり



半身左右敬側
 シンニシ

(七) 腰より上と前後へふらふなり



(九) 身体を直立してゆるゆる立ちたり



一蹲一立

(六) 腰より上と前へ出ると時ハ手と後へ出し又腰より上と後へ



(廿) 片足よく立片足を延びたりかめたり



両脚向前伸

(三) 片足よく立片足ハ前後へ出はたり



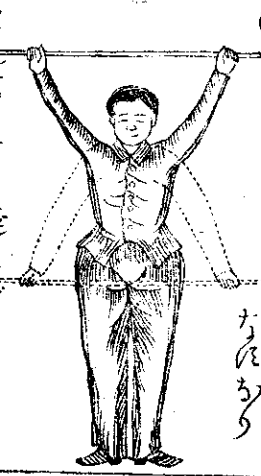
両脚前後屈曲

(三) 片足よく立片足を輪と書心ちよく足と廻たり



両足回轉

(廿) 杖と持て上下た前後へ



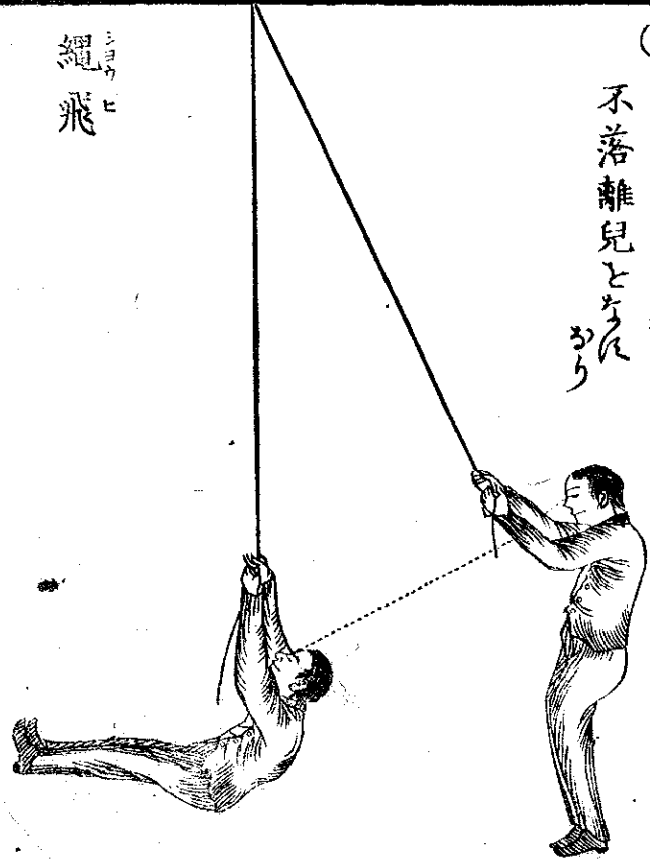
双手握挺一前一後

(廿) 杖と持ちてまたぎ越心して持替てはかはたり



両足越杖

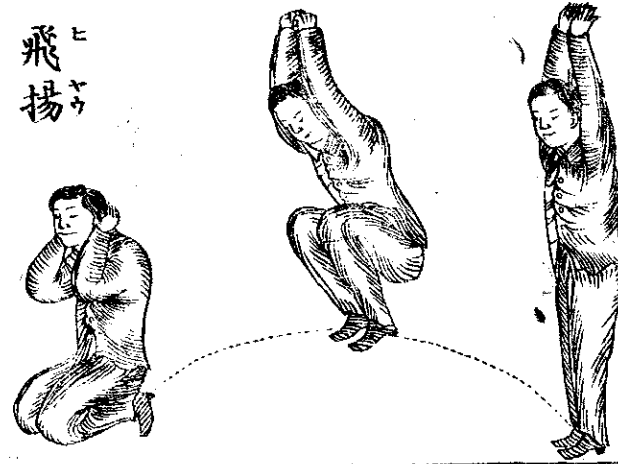
繩飛



(註)

繩とさげ手^{なり}持て
不落離兒とさげ
おろ

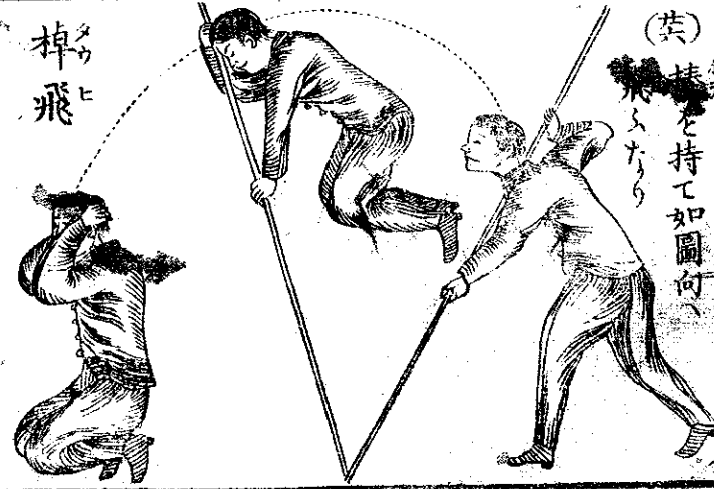
飛揚



(註)

両手を上げ下げしと其
拍子^{ハカ}に向へ飛ぶなり

棹飛



(註)

持^ホてて如圖向
飛ぶなり

(共)

不落離兒ハ拍子ヲ能ク出来る物ナリ
向一行んと思ふ時ハ足をこゝめ後ろへ
返らんと思ふ時ハ足と延し繩ヲ勢ハ
と背る時ハ自然ニふくくと
たつちり



體操タルハ教所中ニ籠リタル鬱氣ヲ
チラスノ要法ニシテ新シキ空氣ヲ呼吸
シ精心ヲ養フノ專一トスル良法ナルニ
無智無學ノ輩惡言ヲ發シ兵隊ノ下
造ラヘ杯ト唱フ者無キニシモ非ス是大
ヒナル過言ナリトハ 皇旨ニ逆ヒ下
ハ其身ノ養生ヲ妨ケ不養生ナル中ハ
勉勵ノ障リ勉強ナラサル中ハ愚人ト
成テ天下ニ無用ノ名ヲ得ルハ恐ル可
キ、最大ナランヤ

小學入門便覽跋

題言本文家ニ教ヘサルノ父ナク戸ニ習ハサルノ童ナカラシメンコトヲ欲スト誠ニ方今教法廣大周遍ニシテ且盛ンナリ 御國恩ノ深キヲ仰クヘシ尊ムヘシ予按ルニ家ニ教ント欲スルハ父有ト雖モ或ハ又蒙昧ノ輩莫キニシモ非ス依テ拙劣ヲ顧ス單語圖ニ畧解ヲ加ヘ連語ニハ音訓兩仮名ヲ書マル敢テ大人ニ指示スルニ非ス只兒童ニ劣ル野夫ノ温習ニ便リ有ント思フ之看ル人解義ノタラサルヲ尤ムル勿レ

西京 水溪良孝誌

明治八年五月廿日 官許
同年七月刻成 癸兌

書

東京通油町
大阪心齋橋本町
尾州名古屋本町
濃州岐阜屋本町
加州金澤安江町
越前福井本町
丹後宮津萬町
同峯山浪華町
祖馬豐岡青田町
丹波福知山鍛冶町
同龜岡西町
江州大津升屋町
同所丸屋町
京都寺町四条上ル

林

水野慶次郎
石田和四郎
片野東四郎
三浦源助
近田太兵衛
酒井安兵衛
南島長兵衛
上島安兵衛
由利喜助
荒木喜助
内藤半七
小川義平
澤川宗次
田中治兵衛